

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	長田康敬		所 属	工学部 電気電子工学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	<p>(1) 学部の講義:情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」、「情報理論」を担当し、この分野の新しい技術を紹介していくことに努める。</p> <p>(2) 上記の学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し、出版できるよう引き続き準備を進める。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成したので、さらに加筆して、講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術の習得を目指す。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆し、これに基づいて実践的な指導を行なう事を計画している。場合によっては、学科や研究科の枠を超えて改善に取り組む。</p>		0.25	<p>(1) 左記の学部の講義を丁寧に行い、各科目それぞれで課題を10問から12問、講義の最後に行い採点した。これにより中間試験、期末試験および課題の試験で評価を行った。電子計算機と情報理論の最近の話題まで講義した。</p> <p>(2) テキストの執筆を行い、特に情報理論は出版社のチェックを受け、出版までの加筆・訂正を指示された。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成し、加筆して、講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術を講義した。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化した。論文購読の手引書をまとめ、これに基づいて実践的な指導を行なった。</p>
研究	0.25	<p>(1) 複数の科研費のプロジェクトに参加し、推進していく計画である。プロジェクトは他学科および沖縄高専との共同研究となる。</p> <p>(2) TLOの研究資金およびライフスタイルイノベーションに関する研究資金に応募する予定である。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装を行なっていく。特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価する。本年度は国際学会での発表と院生の論文投稿に力を入れていく計画である。</p> <p>(4) 以前から計画している3値論理素子の論文投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なう計画である。</p>		0.25	<p>(1) 他学科および沖縄高専との科研費のプロジェクトに参加し、研究を推進した。共同研究による論文が採録された。</p> <p>(2) TLOおよびライフスタイルイノベーションの応募はできなかった。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装は進行中である。非同期システムや耐故障システムの設計と評価を行っている。国際学会での発表と院生の論文投稿を行なった。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文投稿を行なった(電子情報通信学会)。また、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿はまだ行っていない。</p> <p>(5) 邦人の博士課程の院生を1名修了させ、博士の学位を与える。</p>
社会貢献	0.15	<p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発に着手し、地域のニーズに応える。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し、地域の特性に沿った物づくりを行なう予定である。</p>		0.15	<p>(1) センサーネットワーク技術による環境関連設備の新しい技術に着手し、修士の院生と共にその開発を行った(修士論文)。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトをソーラーパネルの会社と推進した。続けて地域の特性に沿った物づくりを行なう予定である。</p>
管理運営	0.15	<p>(1) 1年次指導教官としての職務を全うし、的確な指導を行なっていくつもりである。</p> <p>(2) 学内、学部および学科の各種委員に就き、わかりやすく効率の良いシステム作りに邁進したい。</p>		0.15	<p>(1) 1年次指導教官としての職務を果たし、的確な指導を行なった。</p> <p>(2) 学内、学部および学科の各種委員に就き、わかりやすく効率の良いシステム作りに協力した。特に入試関連の仕事を多く行なった。</p>
進路指導	0.20	<p>(1) 卒研生の進路指導を徹底し、それぞれの希望ができるだけ叶うよう指導をしていく。そのため、就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なっていく。</p> <p>(2) 院生の就職指導を特別に行ない、研究所や大学等への就職情報を多く提供できるようにする。</p>		0.20	<p>(1) 卒研生の進路指導を丁寧に行ない、それぞれの希望の進路へ進めることができた。就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なった。</p> <p>(2) 院生の就職指導を特別に行ない、研究所や大学等への就職情報を多く提供してきた。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		波平 宜敬		所 属		電気電子工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果(別紙1の自己点検結果が複写される)				
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生の学習相談に応じ、きめ細かい指導を行う。 小テストや液晶プロジェクト等を活用して分かりやすい講義を行う。 研究業績などを活用し、より実践的な講義を目指す。 研究室のゼミ等で、プレゼンテーション力を向上させるよう指導する。 				0.25	<ul style="list-style-type: none"> JSPS外国人客員研究員を指導した結果、光通信世界最大の国際会議に論文が沖縄初で採択された。 小テストを活用した講義を行った結果、学生の勉強意欲の向上が見られた。 NHKプロジェクトXなどのDVDを活用し、実践的な講義を行った。 留学生も一緒にゼミを行い、英語と日本語で学生の発表力を向上させた。 				
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 学術論文や国際会議で研究論文1編以上の採択を目指す。 学内横断型若手研究者を育成するため、琉大ドリームチーム会長としての責務を果たす。 ベトナムのハノイ科学技術大学(HUST)と医療用フォトニック結晶ファイバに関する国際共同研究を行う。 				0.25	<ul style="list-style-type: none"> 学術論文や国際会議で研究論文1編以上が採択された。 琉大ドリームチーム会長として、ノーベル賞受賞者の天野先生を沖縄にご招待し、青少年や若手研究者の研究意欲向上に貢献した。 ベトナムのハノイ科学技術大学(HUST)のdr. N. Haiと波平研究室間で、医療用フォトニック結晶ファイバに関する国際共同研究を行った。 				
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定校のベトナムのHUSTなどとの国際交流を深める。 島嶼防災研究センター長として、産学官連携研究プロジェクトに応募し島嶼防災関連の研究を活性化する。 LED可視光通信及び無線通信システム産業等の発展に寄与する。 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定校のベトナムのHUSTに、修士2年の学生を夏休暇中に派遣し、国際交流を深めた。 島嶼防災研究センター長として、戦略的研究推進経費・戦略プロジェクトに応募し2年連続採択され、島嶼防災関連の研究を活性化した。 LED可視光通信及び無線通信システム産業等の発展に寄与した。 				
管理運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 島嶼防災研究センター長として、防災・産学連携・総合研究棟の建設や島嶼防災研究センターの実質的な活性化に貢献する。 研究推進戦略会議の委員として、工学部や島嶼防災研究センターの研究が発展できるように貢献する。 				0.30	<ul style="list-style-type: none"> 島嶼防災研究センター長を務め、地域創生総合研究棟の建設に貢献することで島嶼防災研究センターの活性化に貢献した。 研究推進戦略会議の委員として、研究プロジェクト経費などに関する会議の情報等を工学部や島嶼防災研究センターに報告し、研究経費を獲得できるように貢献した。 				
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 研究室の指導教員として、きめ細かい学習及び進路指導を行う。 講義で、できるだけ多くの学生に質問を行い、就職・進学面接に自信を持って答えられるように学生を指導する。 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> 研究室の指導教員として、きめ細かい学習及び進路指導を行った。 講義で、できるだけ多くの学生に質問を行い、就職・進学面接に自信を持って答えられるように学生を指導した。その結果、学生から授業アンケートで、「先生の最後講義を受けられて感謝です」との評価があった。 				
	0.00										
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藤井 智史	所 属		工学部	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	学部担当科目についてはJABEEの基準を満たす講義を行う。大学院担当科目は、輪講形式で実施し学生の自主的学習を促すようにする。 4年次担当教員として、担当学生に履修指導・進路指導を行なう		0.30	学部担当科目(電気電子計測工学Ⅰ、通信工学Ⅰ)についてJABEE基準を満たす講義を行った。大学院担当科目(信号処理システム特論)は輪講形式にて実施するとともに毎週課題を出して自主学習を促した。4年次担当教員として28名の学生を担当し履修指導を行い、就学相談に応じた。			
研究	0.40	現在獲得している科研費ならびに三菱財団の資金を活用して研究を進め、次年度以降の外部資金獲得に向けて成果発出する。		0.40	科研費ならびに三菱財団の資金を活用して、津波監視に資する海洋レーダプロトタイプを作成し無線局免許を獲得した。研究分担を行っている科研費と合わせて関連する口頭発表は6件。九州大学応用力学研究所研究集会の代表者として主催した。 次年度科研費申請にあたり、外部との共同研究を進め基盤AおよびB計3件の分担研究者として申請中。本年度も三菱電機から研究受託した。			
社会貢献	0.20	総務省と協力して、ITU-Rでの会議において、日本国代表として技術基準作成に貢献する。 大学評価に関する委員の職務を遂行する。		0.20	ITU-R WP5B会合に日本国政府代表として2度参加し、海洋レーダ運用に関する報告書策定を行い、国際標準化活動に貢献した。 国内における海洋レーダの導入・研究に関して技術支援ならびに総務省対応などの援助を行った。 沖縄県内での電子情報通信学会研究会3件のローカルアレンジ、および次年度以降の2件の国際会議の開催準備を行い、学会活動に貢献した。			
管理運営	0.05	学科内および学部内、全学委員会の委員としての職務遂行する。		0.05	学科教育委員会委員長、学部教育委員会委員、全学学士教育プログラム委員として、教育関係のとりまとめ等職務を遂行した。			
進路指導	0.05	研究室4年次学生に対して、進路相談、推薦状作成等に対応し、大学院入試指導、大学院につながる研究指導を行う。大学院博士前期課程学生に対して、進路についての相談にのり就職活動等のサポートを行う。		0.05	研究室4年次学生就職希望者ならびに大学院前期課程2年次学生の就職相談に対応し推薦書作成など支援した。大学院進学希望者には、研究指導に加えて学習指導を行い他大学院を含め入試に合格することができた。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長堂勤	所 属		工学部電気電子工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.40	学部担当科目(システム工学I・II、デジタル信号処理、卒業研究、セミナー)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。授業アンケートの結果に対応する。		0.40	学部担当科目については、ほぼJABEEの基準を満たす講義が行えたものとする。			
研究	0.40	研究論文の採択を目指す。国内外で研究発表を行う。今年度の目標として、査読付き論文1編以上、国際・国内学会発表2件以上とする。		0.40	現在までの研究業績として、レフリー付き学術論文1件採択、1件投稿中、国際学会論文1件投稿中であり、ほぼ設定目標通りであると言える。			
社会貢献	0.05	オープンキャンパスに積極的に取り組む。		0.05	オープンキャンパスに参加し、地元高校生へ電気電子工学の有用性・重要性を説いた。			
管理運営	0.10	学科入試委員会などの委員会活動に積極的に参加する。		0.10	学科入試委員会および大学院入試事務を担当し、各種入学試験の準備作業および実施を行った。また大学院博士前期課程2年次の指導教員を担当し、発表会等の準備作業を行った。			
進路指導	0.05	卒研生および指導担当年次学生に対して進路相談等に対応する。		0.05	担当する卒研生に対し、進路指導および就職担当教員からの連絡を行った。本年度は担当する卒研生3名全員の進路が決定した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		半場 滋	所 属		工学部	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	(1)電気数学IV(昼間主コース)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(2)非線形制御特論(大学院)の講義資料を改訂し、講義内容の充実をはかる。(3)エンジニアリングデザイン講義(昼・夜間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(4)卒研生および大学院生の研究指導では、学生の自主性を重視した指導をおこなう。			0.40	(1)電気数学IVの講義資料を改訂し、学生に合わせた講義をおこなった。受講者数84名中不可は6名で、不可率は7.1%である。(2)非線形制御特論の講義資料を全面的に改訂し、講義において学生に配布した。(3)エンジニアリングデザイン講義資料を改訂し、講義で利用した。とくに、ブレンストーミングの課題を、大学院進学率に関する課題に差し替えた。(4)博士前期課程学生は就職、卒研生は2名就職・1名進学となり、進路指導を有効におこなうことができた。		
研究	0.40	(1)非線形制御理論に関する研究を進め、とくに基盤研究(C)23560535に関する成果を取りまとめる。(2)年度内に1本以上論文を投稿する。(3)査読者として、投稿論文の適切な査読をおこなう。			0.40	(1)非線形制御理論に関する研究を進め、基盤研究(C)23560535に関する成果を取りまとめた。(2)International Journal of Adaptive Control and Signal Processing誌に論文を投稿した。他にも投稿論文を準備中である。(3)Automatica, Systems & Control Letters, Asian Journal of Control, Kybernetica, Conferdnce of Decision and Controlへの投稿論文の査読をおこなった(のべ13件、再査読を含む)。		
社会貢献	0.05	(1)講義資料や出版済み論文などを、著作権上問題がない限りにおいて、適宜ホームページにて公開する。(2)卒業研究や博士前期課程の研究に関する実験動画を公開する。			0.05	(1)改訂版の講義資料をホームページにて公開した。(2)卒業研究や博士前期課程の研究に関する実験動画をホームページで公開した。		
管理運営	0.10	(1)実験検討委員長として、実験に係る予算や担当者等の調整、実験内容の改善などの業務に取り組む。(2)計算機システム管理運営委員長として学科ネットワークの管理運営作業をおこなう。(3)その他各種委員会の業務に取り組む。			0.10	(1)実験検討委員長として各種業務に取り組んだ。(2)計算機システム管理運営委員長としてネットワークの管理運営作業やセキュリティインシデントへの対応をおこなった。(3)工学部教員委員会に積極的に取り組んだ。(4)学科教育委員会で成績不良学生への対策案の策定などに取り組んだ。(5)大学電気系教員協議会に参加し、学科FDIにて結果を報告した。(6)エンジニアリングデザイン講義における大学院進学率にかかるブレンストーミングの結果を取り纏め、学科FDIにて報告した。(7)IT戦略会議に積極的に取り組んだ。		
進路指導	0.05	(1)進学志望の学生については、学生の志望等に合わせた指導をおこなう。(2)就職志望の学生については、就職活動の進め方について、学生の反応を見つつ柔軟に指導する。			0.05	博士前期課程学生は就職、卒研生は2名就職・1名進学となり、効果的な進路指導をおこなうことができ、かつ卒業生・修了生の進路決定率および大学院進学率の向上にも貢献することができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長名 保範	所 属	工学部電気電子工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	卒研究生や修士の学生の指導には、昨年までの反省を活かして改善策を考えながら臨みたいと考えている。大学院科目は昨年で2年目になり、学生の理解度も1年目より高まったと考えているが、今年度はさらにより科目になるようにスケジュールや教材の見直しなどを行う。		0.40	中期計画達成プロジェクト経費による学生実験の教育改善にも取り組むことができた。大学院講義の内容は全体を見直して再構成し、よい結果であったと考えている。	
研究	0.40	昨年度より獲得している科研費により、引き続き流体計算向けアクセラレータに関する研究を行い、積極的に学会発表などを行う。また、国立環境研と共同で、アオコを形成するバクテリアのゲノム解析のプロジェクトを開始する予定である。		0.35	科研費による研究は概ね予定通り進捗し、学生による3件の口頭発表を行った。国立環境研との共同研究は論文の投稿まで進んでおり、来年度はさらに進めていきたい。	
社会貢献	0.10	電子情報通信学会の英文論文誌編集委員・研究専門委員などの活動を継続する。また、6月開催の国際会議HEART2014その他の委員としてそれぞれの会議の開催に関わる業務を行う。		0.10	左記のような学会の各種委員会の活動を行い、それぞれ充実したものとなった。国際会議の委員としての活動は来年度以降も拡大して継続するので引き続き努力したい。	
管理運営	0.05	学部・学科の各委員会の活動を通じて大学の管理運営業務を行う。		0.05	学部・学科の各種委員会業務を行った。	
進路指導	0.10	本年度は特に四年次の指導教員であるので、担当する学生の進路指導を行う。		0.10	主に四年生の進路指導を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野口 隆	所 属	工学部	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	学部、院担当科目で、原理的に理解させ、科目に興味をしめすよう努めて講義する。必要に応じ Gp. 討議を入れ能動的な講義に努める。ゼミでの英語、討論を実施する。修士学位論文(英語で発表)の指導と役に立つ人材輩出に努める。大学院専攻のサポート。		0.25	学部生には興味を抱かせるべく具体的にサンプルを準備して講義。院講義では英語のプレゼン力を強化した。ゼミでは会話力UP。院生の修論(中間)発表は日本人は英語で、外国人は日本語で指導を徹底した。	
研究	0.25	地域特性を生かした省資源でクリーンな半導体の研究を(TFT、太陽電池、光センサなど)を推進。国際会議発表(3件以上)、正規論文2件以上。産学、学学、海外共同研究推進。(部局間交流) 新規外部資金(研究費)の獲得をめざす。工学部の研究推進。		0.25	産学研究をもとに、研究成果を発信した。(国際会議10件、内招待2件)。正規論文3編投稿。共同研究を推進した。工学部でも学科を超えたプロジェクトの研究を推進している。フランス・韓国の大学・国内の産学連携研究を推進した。	
社会貢献	0.20	国際会議(AMFPD、ITC、IDW、IMID、AWAD他)の委員、論文委員、査読(JJAP、IEICE他)などに貢献する。国際的な研究、教育交流に貢献する。(韓国他) 教員免許審査、出前講義で貢献する。研究等で出展。(JST新技術説明会等)工学部運営を通して貢献。		0.20	4つの国際会議の委員として貢献。論文はレフリーして貢献した。ナノテク展・レーザー展に大学代表として新技術・大学での研究成果を発表した。沖縄県産業まつりに出展し、小学生等のセミナーを開催して貢献した。	
管理運営	0.20	工学部、大学院教育、研究推進で貢献する。研究推進委員(長)として工学部内で貢献する。教員免許審査、講義で貢献する。上記と関連するが、国際会議の委員、論文委員、査読などに貢献する。国際的な研究、教育交流に貢献する。(韓国他)		0.20	大学院では、次年度より科学者の倫理を学部で3学科必修化した。これは他大学に先行している。工学部大学院教育の活性化に貢献した。4つの国際会議の委員・論文査読に貢献した。留学生を受け入れ、国際的な研究として韓国湖西大学と2回の交流会をおこなった。交流会は第10回に達した。	
進路指導	0.10	3年次指導教員として意欲的な学生には適正をいかすべく進路指導する。研究室の学生の進路指導(進学のおすすめと就職サポート)。		0.10	3年次指導教員として意欲的に学習に励むことを薦めたが、講義・研究室ゼミを通して進路指導をした(面接・オリエンテーション)。	
	0.00	上記に関連して、副学部長(各種学内委員)として、工学部運営に貢献(主に研究担当)		0.00	大学院では、次年度より科学者の倫理を学部で3学科必修化した。これは他大学に先行している。工学部大学院教育の活性化に貢献した。さらに、研究推進委員会を中心に工学部研究推進に貢献(研究推進戦略会議他)。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山里将朗	所 属		電気電子工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	学部担当科目(回路理論 I, 量子力学 I, 電子デバイス工学 I)を担当し, JABEEの基準を満たす講義を行う。		0.30	学部担当科目(回路理論 I, 量子力学 I, 電子デバイス工学 I)を担当し, JABEEの基準を満たす講義を行った。			
研究	0.30	大学院修士課程の学生と共に研究発表及び国際会議や原著論文を1件以上採択を目指す。科研費を獲得し, 関連企業との共同研究を継続し, 実社会に応用できる技術の研究開発に努める。		0.30	科研費を獲得し, 関連企業との共同研究を継続し, 実社会に応用できる技術の研究開発を行った。ISEHD2014にて論文発表を行った。また, 本年度の結果について論文執筆している。			
社会貢献	0.10	高校訪問, オープンキャンパス等を通して, 電気電子工学の社会における役割を紹介する。		0.10	オープンキャンパス等を通して, 電気電子工学の社会における役割を紹介した。			
管理運営	0.10	科目検討委員会などの委員会活動に積極的に参加する。		0.10	科目検討委員会に積極的に参加した。			
進路指導	0.20	就職担当として, 進路指導及び就職支援を行う。		0.20	就職担当として, 学生の進路指導を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		景山 弘	所 属		工学部電気電子工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	1年次対象の電気数学Ⅰ(昼間主)、電磁気学Ⅰ(昼間主および夜間主)、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当する予定である。昨年度と同様に、毎回の講義において、前回の内容に関する小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮する。		0.30	1年次対象の電気数学Ⅰ(昼間主)、電磁気学Ⅰ(昼間主および夜間主)、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当した。毎回の講義において、前回の内容に関する小テストを行った。昨年度までは、小テストを回収し、採点したうえで返却していたが、今年度は小テストを行った直後に模範解答を示し、学生がその場で自己評価できるように配慮した。
研究	0.30	昨年度に引き続き、有機エレクトロルミネッセンスデバイスおよび有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行う。研究成果は、論文あるいは学会発表の形で公表する。なお、少なくとも、1件以上の論文投稿あるいは学会発表を行うことを目標とする。		0.30	有機エレクトロルミネッセンス素子および有機薄膜太陽電池用の陰極バッファに関する研究を行い、陰極バッファを用いることによる素子性能向上のメカニズムに関して知見を得た。研究成果を、国内学会および国際会議にて発表した(招待講演2件)。3月に予定されている国内学会の一般講演としても発表を予定している。
社会貢献	0.10	昨年度と同様に、高分子学会 印刷・情報記録・表示研究会委員として、主にプリンタブルエレクトロニクス関係の研究会・講座を企画・開催する。また、有機EL討論会の運営委員を務める予定である。学会・産業界の最新の研究・開発動向を社会に公表する場を設けることにより、これらの研究分野の発展ならびに社会への貢献に寄与する。		0.10	高分子学会 印刷・情報記録・表示研究会運営委員として、プリンタブルエレクトロニクス関係の研究会・講座を企画・開催した。また、有機EL討論会の運営委員を務めた。
管理運営	0.15	教育委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、電子物性関係科目検討委員会、研究推進委員会の各委員を担当し、学科・学部の運営活動を行う。		0.15	教育委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、電子物性関係科目検討委員会、研究推進委員会の各委員を担当し、学科・学部の運営活動を行った。
進路指導	0.15	学部4年次指導教員を担当し、学生の進路指導にあたる。また、研究室に配属された4年生学生に対して、定期的に進路指導を行う。		0.15	学部4年次指導教員を担当し、学生の進路指導を行った。また、研究室に配属された4年生学生に対する進路指導を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城光永	所 属		工学部	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I, 同II, 量子力学IIおよび電気電子工学概論II, 夜間主コースにおける電子回路I, 同IIを担当し, JABEEの基準を満たす講義を行う。また, 大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し, 量子計算機のソフトウェアとハードウェアに関する講義を日本語及び英語にて行う。			0.17	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I, 同II, 量子力学II, および電気電子工学概論IIに加え, 電気電子システム工学実験IIのエンジニアリングデザイン教育, 夜間主コースにおける電子回路I, 同IIを担当しJABEEの基準を満たす講義を行った。また, 大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し, 最新のトピックをもとに日本語及び英語で教育指導を行った。		
研究	0.30	量子計算機の実現に向けた基礎的研究開発に努める。その成果を基に国内外学会発表および学術論文など2件以上の投稿を目指す。			0.14	量子計算機の実現に向けた基礎的研究開発の成果を国内講演会において1件, 研究会において1件発表し, 1件発表予定である。また, 研究論文1件執筆中である。		
社会貢献	0.15	回路とシステムワークショップ実行委員として学外研究会の実施に協力する。また, 公開講座として, 小学生に対し電気電子への興味を持ってもらうため, 簡単な電子工作教室を企画運営する。			0.14	回路とシステムワークショップ実行委員を終え, 公開講座として, 琉球大学RCC事業に協力し, 那覇キャンパス(那覇市牧志駅前ほしぞら公民館)にて小学生向けの電気電子工作教室を企画運営した。		
管理運営	0.13	JABEE委員, 入試委員などの学科内委員会活動に加え, 学部の代議員として委員会活動に積極的に参加する。			0.20	学科のJABEE委員, 入試委員および電子物性関係科目検討委員として, さらに学部の代議員として委員会活動に積極的に参加した。また, 4年次指導教員連絡係として, 卒業研究中間発表会および最終発表会の企画運営を行った。		
進路指導	0.12	学部昼間主コース4年次の指導教員として, 年次別懇談会, オフィスアワーなどを利用し, 学生の大学生活および進路の指導を行う。また, 研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行う。			0.35	学部昼間主コース4年次の指導教員連絡係として, 年次別懇談会やオフィスアワーなどを利用し, 学生の大学生活および進路の指導を行った。特に他の指導教員や保健管理センターと連携し学生5名に対する教育的指導を行った。また, 本配属の企画運営を行った。さらに, 研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡田 竜弥	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学生実験において、単なる手順の遂行でなくその場で考えながら進められるよう工夫するとともに、実験手順、考察をきちんとレポートにまとめられるよう指導する。			0.25	学生実験において、観測された結果から何を読み取るか、何が考察できるかを考えつつ実験を進めるよう指導するとともに、提出されたレポートについて、指導を行なった。		
研究	0.25	学会で研究成果を発表するとともに、2本以上を目標に論文にまとめ投稿する。また科研費やJSTなどの外部資金獲得に向けて、積極的に応募する。			0.30	第一著者として4件の国際会議、2件の国内会議で研究成果を発表し、1件の論文を投稿した。科研費・JSTなどへは応募したが、採択されるには至らなかった。		
社会貢献	0.10	他の業務に支障のない範囲で、研究会への参画など積極的に行なう。			0.05	ナノテク展への出展や研究会での発表を通じ、研究成果を発信した。		
管理運営	0.20	1年次指導教員の連絡係として、また学科の教育委員会など各委員会の委員として責任をもって業務をこなす。			0.20	1年次指導教員の連絡係、教育委員会の時間割担当など、委員として責任を持って業務を行なった。		
進路指導	0.20	1年次指導教員として、年次別懇談会や合宿研修などを通じて、将来の進路について考え、1年次のうちにできることを考え実践するよう指導する。			0.20	1年次指導教員として、年次別懇談会などを通じ、就職センター主催のセミナーを案内したり、指導を行なった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		曾根川 富博	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	前期の4年電子システム工学実験, 3年電気電子システム工学実験I, 後期の3年電気電子システム工学実験IIでの、受講生の理解度を深めPCを利用した報告書作成方法の理解がえられるよう指導を行うとともに、しっかりとした、オリジナリティの高い報告書を作成するように指導する。			0.35	オリジナリティのあるレポート, PCを用いたデータ整理, 報告書作成の指導を積極的におこなったが, まだ, 学生の理解度は不十分なようなので, 今後, 指導の改善を目指す。		
研究	0.30	多孔質シリコンを用いた低誘電率材料の作製についてp型シリコンを用いた試料について誘電率の大幅低下を示す試料が見られたので, 引き続いて, 実験データに低誘電率化の改善, 再現性等の追実験を行いその特性を明らかにし, 応用物理学会での発表を目指す。			0.30	低誘電率材料の作製で, 過去の実験で得られた誘電率を下回る結果が得られたものの, ばらつきが大きく再現性, および作製パラメータの関連性が明確にならず, 学会等への発表にはいたらなかった。		
社会貢献	0.05	工学部講演会総会等、講演会主催行事に積極的に参加し貢献する			0.05	夏季に行われた工学部講演会総会およびその後行われた懇親会に出席することができた。		
管理運営	0.25	工学部の選挙管理委員会, 学科のJABEE, 実験検討, 安全の各委員会に積極的に参加する。			0.25	各種委員会活動に積極的に参加できたが, JABEE委員会での活動報告書の作成については, 準備不足もあり, 遅延を生じてしまった。		
進路指導	0.05	卒業研究を指導している学生の進路について相談に乗り, 来年度の進路を決定させる。			0.05	研究室配属の学生2名について, 両名とも早々に就職先が決定することができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金子英治	所 属		工学部 電気電子工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	担当する科目において出席率向上を図る。そのための施策として、電力工学 I では毎回の小テスト実施および宿題を課す。中間テストでの理解度チェックにより方針の検討を行う。倫理教育においても毎回の課題・討論により授業参加率の向上をを具体的に進める。		0.20	小テストはほぼ毎回実施した。宿題も適時実施し、学生の履修状況の確認に努めた。倫理についても毎回のレポートに対してもコメントを付けて返すようにし、履修確認を行い、結果として出席率の向上が図られた。効果があったと考える。
研究	0.30	共同研究先の開拓を進める。新規1件以上の達成を実現する。研究成果の発表の場として国際会議への出席、論文発表を行う。所属学生全員に学外発表を行わせる。自身のジャーナル投稿を複数件実現する。		0.30	共同研究については2件の成約を実現した。入金が遅れがあつて、予算消化について苦労したが、経理との相談で特に問題なく処理できる見込みである。国際会議については日本人修士2年次には1-2回発表させた。修士学生、学部学生ともに全員学外発表を行わせた。自身のジャーナルについては執筆中である。
社会貢献	0.30	放電学会会長として学会の運営を行う。幾つかの国際会議の運営を行うと共に新規国際会議招致を実現する。電気学会の委員会活動に貢献する。タイ国からのインターンシップ学生の受け入れ、および、当方からの送り出しを図る。		0.30	放電学会会長としてシンポジウム開催した。国際会議についてはIWHVを沖縄で開催した。ICEPE-ST2015の韓国大会を運営員会委員としてサポートしている。ICEE2016についてLOC委員長として現地実行委員会を開催した。ISDEIV2014を国際運営委員として運営しインド大会を実施した。タイ学生招致を行い、また、研究室の学生を派遣した。
管理運営	0.10	研究室所属学生のメンタル面の健康増進をはかる。工学部社会貢献委員会で活動し、企業との連携を強める。科目検討委員会では回路理論の取りまとめとして教育の水準維持に努める。大学院入試委員会ではスムーズな運営を図る。		0.10	全員元気に研究活動に励んでくれた。メンタル面について特に問題は無い。社会貢献委員会では会社説明会を運営した。久米島視察に出かけ調査活動を行った。工連ニュースに投稿した。回路理論科目検討委員会では委員会を開催した。結果を議事録として文書サーバに登録した。大学院の入試委員として取りまとめ、入試事務を滞りなく進めた。
進路指導	0.10	研究室所属学生の就職活動に対する援助を行う。研究室所属学生の就職率100%を目指す。進学者に対する進学指導を実施する。博士課程の学生のジャーナル投稿、研究推進を図り、研究レベルの高度化充実、早い学位取得の道筋をつける。		0.10	就職、進学とも100%達成した。博士課程の学生のジャーナル投稿を行った。現在修正再投稿中である。企業との共同研究も具体的に進みつつあり、これをばねに研究推進、学士取得につなげてゆく予定にしている。
	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	全項目について目標達成した。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		千住智信		所 属		電気電子工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学(昼間主)、後期:電気機器Ⅰ(昼間主、夜間主)、電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を助ける。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生4名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究生4名)を行う。				0.20	学部担当科目(前期:エネルギー変換工学(昼間主)、電気機器Ⅰ(昼間主、夜間主)、電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解度の向上を図った。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生4名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究生4名)を行った。博士前期課程2年次5名(うち留学生1名)ならびに博士後期課程3年次の外国人留学生1名は無事学位を取得した。博士前期課程の外国人留学生1名と日本人学生1名は、研究成果が優れているため優秀学生賞(学長賞)を受賞した。また、指導した学生は多数の学術賞を受賞した。特にバリ島で開催された国際会議では、第1位と第3位の論文賞を受賞した。				
研究	0.20	研究論文3編以上の採択を目指す。科学研究費補助金の採択を目指す。外部資金獲得のために、各種財団へ研究助成金の申請を行う。さらに、企業との共同研究を実施する。海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表するとともに、学術交流を図る。				0.20	5編の学術研究論文を著名な国際論文誌に掲載することができた。国際会議へも積極的に投稿し、10編以上の論文を発表した。科学研究費補助金の申請を行い、基盤研究(C)が採択された。外部資金獲得のために、総務省の研究助成金(SCOPE)の申請を行い、外部資金を獲得した。さらに、沖縄県内の企業との共同研究を実施し、報告書を作成した。海外の大学の研究者と共同研究を進め、学術論文誌により研究成果を発表した。さらに、学術交流を図るためにオーストラリアのRMIT大学を訪問し、研究交流を行うと共に大学間学術協定締結のための基礎的調査を行った。エジプトからの研究者2名を受け入れ、共同研究を実施している。国際会議(ICEE 2014: 韓国、済州島)で発表した学術論文の研究成果が認められ、Best Paper Awardを関連者と共に受賞した。				
社会貢献	0.20	電気学会九州支部沖縄支所委員を務める。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る委員を務め、水溶性天然ガスの利活用法について提言する。那覇市の環境委員会委員を務め、那覇市の環境に関する提言を行う。電気学会、IEEE等の論文査読を行う。				0.20	電気学会九州支部沖縄支所委員を務め、沖縄支所講演会の実施に協力した。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る委員会(沖縄県ならびに南城市)の委員長を務め、水溶性天然ガスの利活用法について数多くの提言を行った。那覇市の環境委員会委員を務め、那覇市の環境・エネルギーに関する提言・助言を行った。また、宮古島市と久米島町の委員会においても適切な助言を与えた。電気学会等の学術論文誌の論文査読を行い、関連分野の研究の学術の進展に寄与した。				
管理運営	0.30	下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与する。特に学科内では学科長を務めると共に各種委員会委員を担当する。さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事する。 学科: 学科長、年度計画実施委員会委員、 工学部: 将来計画委員会委員、予算配分委員会委員、 全学: 総合情報処理センター長、学生生活委員会委員				0.30	学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に貢献した。学科内では学科長を務め学科内の各種業務の管理運営を掌握した。工学部では、将来計画委員会委員を務め、工学部の学を部改組に係る各種作業に積極的に協力した。また、予算配分委員会では、委員長として委員を務め、次年度予算の配分を円滑に行った。さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事した。また、全学教育委員会委員、学生生活委員会委員等を務め学内の管理運用に貢献した。				
進路指導	0.10	研究室所属学生(博士前期課程5名)の就職指導と進学指導を綿密に行うことにより、研究室学生の進学・就職支援を行う。また、研究室所属学生の学部学生4名の進学に関して、TOEFLの受験指導を行うとともに、進学に必要な専門基礎科目、専門科目に関して受験勉強の支援を行う。さらに、就職希望の学部学生に関して本人の希望をもとに適切な就職指導を行う。このような努力により、研究室学生の進学・就職率100%を目指す。また、私費外国人の進学就職に関しても指導を行い、博士後期課程へ入学させる。				0.10	研究室所属学生(博士前期課程5名)の就職指導と進学指導を綿密に行うことにより、研究室学生の進学・就職支援を行った。全ての博士前期学生は、進学・就職が決定した。また、研究室所属学生の学部学生3名は、受験に係る各種指導により本学の博士前期課程への進学が無事決定した。さらに、就職希望の学部学生に関して本人の希望をもとに適切な就職指導を行い、第一希望の会社へ無事就職の内定を得た。また、私費外国人の進学指導を行い、バングラデシュとインドからの外国人私費留学生を本学へ入学させた。博士後期課程の私費外国人留学生の支援を行い、文部科学省の国内採用による国費留学生として採用された。博士前期課程の外国人留学生は、年度末に母国に帰国するが、JSPSの論博プログラムに採択され、次年度より研究指導を行い3年以内に学位を取得させる。				
	0.00					0.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		米須 章	所 属		工学部電気電子工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気工学概論、電気数学Ⅳ、科学者の倫理を担当し、社会の要求を満たす水準の講義を行う。また、毎回、学生への質問や小テストなどを行うことにより、学生が積極的に講義に取り組めるよう工夫する。		0.30	予定通り、電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気工学概論、電気数学Ⅳ、科学者の倫理を担当した。各講義では、毎回、小テストや講義中の学生への質問等を行い、学生が講義に積極的に取り組めるように工夫した。これらの結果、学生によるアンケートでも評価は高かった。以上より、目標を達成することが出来た。
研究	0.20	プラズマ滅菌に関する研究を進め、成果を学術論文、国際会議などに2件以上投稿する。また、企業と共同研究を2件以上行い、外部資金の獲得を目指す。		0.20	二件の国際学会に参加し、プラズマ滅菌について発表を行った。その他、院生が国内での学会発表を1件行った。サラヤ株式会社および古河C&B株式会社と共同研究を行い、外部資金を獲得した。また、その共同研究での成果を論文にまとめ投稿し、採択された。更に科研費の分担者として九州大学と共同で研究を進めた。以上より、目標を達成することが出来た。
社会貢献	0.15	企業との共同研究を進め、プラズマ滅菌装置の実用化を目指す。		0.15	サラヤ株式会社および古河C&B株式会社と共同研究を行い、プラズマ滅菌装置の開発をすすめた。以上より目標を達成することができた。
管理運営	0.25	電気電子工学専攻主任、学部入学者選抜委員会委員長、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員長、電磁気学科目検討委員会委員、電気数学科目検討委員会委員、入学者選抜方法等検討委員会委員、特別プログラム運営委員会委員、工学部入試検討委員、研究推進委員会委員として積極的に活動する。		0.25	予定通り、電気電子工学専攻主任として専攻の運営を行い、無事その職責を果たした。また、学部入学者選抜委員会委員長、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員長、工学部オープンキャンパス実施委員会委員長、電磁気学科目検討委員会委員、電気数学科目検討委員会委員、入学者選抜方法等検討委員会委員、特別プログラム運営委員会委員、工学部入試検討委員、研究推進委員会委員として積極的に活動した。以上より、目標を達成することができた。
進路指導	0.10	研究室に配属された学生に対して就職指導および進学指導を行い、全員が希望の進路へ進めるよう支援・指導を行う。		0.10	研究室に配属された卒研生4人に対し、進路について指導を行った。結果、2人の就職は内定したが、残念ながら公務員志望の二人の就職は決まらなかった。目標を完全に達成することはできなかった。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浦崎直光	所 属		工学部電気電子工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・新生向け科目である電気電子工学概論Ⅰの内容充実を図る。 ・電気数学Ⅲでは演習を開設し、受講生の理解度向上を図る。 ・大学院科目(電気機器工学特論)では、英語による授業を継続する。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学概論Ⅰにおける履修計画ならびにレポートの記述法に関して実践作業を増やす内容に見直した。 ・電気数学Ⅲでは不可の学生数に改善はみられなかった。演習方法について検討する必要がある。 		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも1件の研究成果発表(学会発表、論文投稿)を行う。 ・研究助成金等へ応募し、外部資金獲得のための活動を積極的に行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・国際会議ICEE2014でBest Paper Awardを受賞した。 ・総務省の競争的資金に応募し、採択された。 		
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学関連の行事に積極的に参加する。 ・技術相談等の要求があった場合は適切に対応する。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・IT津梁まつりにおいて、小中高生向けに電子回路製作教室を開催した。 ・小学校において自然エネルギーに関する特別授業を行った。 		
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ監査責任者としての任務を全うする。 ・電気主任技術者事務担当として、在学生ならびに卒業生の資格取得のサポートを行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・電気主任技術者認定においてカリキュラム変更に伴う変更届の手続きをした。 ・工学部将来計画委員として組織改革に関する活動を行った。 		
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員を担当している1年次学生に対してキャリア教育を企画する。 ・研究室配属の学生に対しては、定期的に進路指導を行う。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学概論Ⅰにおいて外部講師による低学年向けキャリア講義を実施した。 ・研究室に配属された4年次学生2名に対し、1名の大学院進学と1名の就職内定を決定した。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山本健一	所 属		工学部電気電子工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	学部教育では電気電子材料I, 同(夜間主), 電気電子材料II, 回路理論IVの3科目を担当する。シラバス作成とそれに沿った授業の実施に加え, 科目のホームページを開設し講義資料の閲覧を可能とする。また, 卒業研究とセミナーを指導する。大学院教育では磁気物性工学特論を担当する。学部3年次の指導教員となっており, 連絡係として年次別懇談会, 現業実習等を担当する。オフィスアワーは週2時間ほど開設する。		0.35	当初の科目を開設するとともに, 予定どおり運用できた。学部3年次の指導教員連絡係として, 各種事務処理を滞りなく遂行した。現業実習では, 工学部事務ならびに会社との連絡を仲立ちするとともにマナー講習を開催した。オフィスアワーには学生の質問等に対応した。
研究	0.25	面圧縮力の効果が電磁鋼板の磁気損失に及ぼす効果について, 測定を継続し磁化過程に関する研究を推進する。科研費を申請予定。		0.25	測定を中心とする研究を行い, 成果を国際workshop(2DMAG)にて発表した。科研費はじめ各種予算申請に努めた。
社会貢献	0.10	電気学会電力用磁性材料の高度活用技術委員としての活動を行う。		0.10	左記の委員会ならびに日本磁気学会編集委員会, ICEE2016実行委員会に出席し活動した。
管理運営	0.25	学科では予算委員会, JABEE委員会に属し管理運営にあたる。予算委員会では委員長として円滑な委員会活動に尽力する。工学部予算委員会委員としての任にあたるとともに, 工学部教授会をはじめ各種会議に出席し各組織の運営に携わる。		0.25	JABEE委員会では授業評価アンケートなどを担当し役務を果たした。予算案を作成し学科に提案するとともに学科が適正に予算執行できるよう尽力した。学部予算委員会でも意見を述べた。また, 教授会をはじめ各種会議にて運営に携わることができた。
進路指導	0.05	卒業研究およびセミナー受講者に対して進路指導を行う。		0.05	進路指導の結果, 2名の卒研究生全員が就職内定を得た。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	